

環境対策等新技术で講演 土研ショーケースin福岡



国立研究開発法人土木研究所は25日、福岡市内で「土研新技术ショーケース2018 in 福岡」を開催し、土研が開発した技術のうち適用効果の高いものを厳選し、その内容を所属する研究員や共同開発者が講演した。（一社）建設コンサルタンツ協会九州支部の共催で、九州地方整備局や福岡県、福岡市などが後援した。

は、建設コンサルタンツや建設業、発注機関の関係者ら約290人が足を運び、新たな技術開発に係る解説等に熱心に耳を傾けていた。

土研新技术ショーケースは、土研の開発技術への理解と活用の促進を図ることを目的に、平成14年度から全国各都市で開催されているもの。

25日の福岡市内でのショーケースでは、開会にあたり土研の西川和廣理事長があいさつ、研究所の活動内容やショーケースの開催目的、この日の講演内容などについて説明した。

プログラムでは、土研の研究員らが河川やモニタリング、環境対策、長寿命化に関する11の技術について講演。更には九州大学大学院の三谷泰浩教授が「3次元データによる道路構造物の維持管理」、国土交通省九州技術事務所の島本卓三所長が「新型簡易遠隔操作装置（ロボQS）の開発」について講演した。

このほか、講演会場とは別室に展示・技術相談コーナーが設置、講演11技術を含む43の技術に関するパネルや模型なども展示された。

閉会に際しては、建コン協九州支部の福島宏治支部長があいさつ。「土木技術はみんなが使えるということが大切だ。国民の安全・安心に寄与して、社会の成長と持続性に役立ち、そして100年後の社会に責任の持てる土木技術として、生産性革命の深化を進めていくためにも、本日のショーケースが皆さん一人ひとりにとって、実り多いものになることを祈念してこの「ショー」だ。